



例え十秒前でも噴火を予知できれば・・・

木曾の御嶽山が爆発。戦後最悪の人的被害を生じた。今なお、行方不明者の捜索が続いている。「噴火が予知できなかったのか？」という声がある。

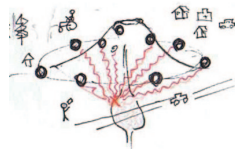
投ずる予算が日本は遙かに少ない。ポストを作らなければ誰も火山研究は出来ない。

予知する為には

火山の状態を観測する態勢と、観測データを分析する態勢が必要だ。御嶽山の山頂付近の地震計五基の内三基は老朽化等で昨年八月から稼働せず。老朽化する前に更新する予算をつけるべきだ。

こんな観測態勢では噴火時に、火口の下で何が起こっているか、調べようも無い。噴火予知などできない。

活火山が百十ある日本に、火山学者は四〇人と聞いた。一方、活火山十のイタリアでは、火山学者は六百人。要するに火山の研究に



火山の地震観測で

火山の地下にはマグマがあつたり、それが固

まつたものがあつたり複雑。その為、地震波の伝わる速度は場所によつて変わる。火山の山頂から麓まで、図の○印のように沢山の地震計を置けば、火山の地下の様子が細かく分かる。そうしたデータを積み重ねれば、噴火直前の予知も夢では無いだろう。緊急地震速報のように、例え、十秒前でも噴火を予知できれば助かる人が増えたのではないか？

皆さんはどう思われますか？

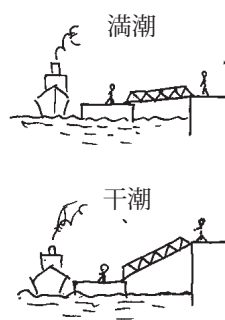
牛窓の港

岡山県瀬戸内市牛窓町

二〇一三年十月



昨年十月、岡山県の瀬戸内海岸の牛窓を訪れた。宿の目の前が牛窓の港。



瀬戸内海は干満の差が大きいので岸壁に直接船を着けられない。どこにも浮き棧橋がある。潮が引くと浮き棧橋が下がるので橋の傾斜がきつくなる。

五才の頃だった。矢張り瀬戸内海岸に住んでいた。父の知り合いが船で来るといので港まで迎えに行った。その時、浮き棧橋に降りる鉄板の橋の傾斜がとても急だった。棧橋まで降りるのに難渋して、笑われた。

牛窓は小豆島に次ぐオリーブの産地。山にはオリーブが沢山あつた。